
平成23年度内閣府
国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

実 施 報 告 書

はじめに

男女共同参画社会の形成は、広く国民に関わるとともに、あらゆる分野において推進すべきものであり、国のみならず地方公共団体、民間団体における取組の促進が極めて重要です。

このため内閣府では、男女共同参画社会づくりに向けての国民的な取組を推進するため、男女共同参画推進連携会議（※）及び同会議構成団体との共催により、男女共同参画社会づくりに資するテーマに関連したセミナーやシンポジウム、またこれらに類する研修会・学習会・出前授業等を「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」により実施しています。

このたび、平成23年度事業の概要について、各共催団体が作成した実施報告がまとまりましたので、今後、男女共同参画の推進に関するセミナー等の企画・立案を検討の際には御活用ください。

（※）男女共同参画推進連携会議は、広く各界各層との情報・意見交換等を通じて、民間との連携ネットワークを形成し、国民的な取組を推進することを目的として、平成8年より開催しています。

内閣府男女共同参画局

目 次

1. シンポジウム「映像メディアの世界における女性の活躍」..... P. 4
（明治大学等との共催）
2. 若者の性の問題に対するより効果的な連携に向けて～女性への性暴力を防ぐ～
..... P. 6
（公益社団法人日本女医会等との共催）
3. 具体的にみる女性の社会参画と地位向上..... P. 8
（一般社団法人国際女性教育振興会等との共催）
4. 女性の経済活動セミナー「女性がつくる、地域の元気」..... P. 10
（日本生活協同組合連合会等との共催）
5. 『理系女子学生と女性企業技術者が未来を創る』キャリア開発を見つめるコンファレンス 輝け！企業の理系女子（リケジョ）..... P. 12
（特定 NPO 法人ジャパン・ウィメンズ・イノベイティブ・ネットワーク等との共催）
6. キャリアアップセミナー..... P. 14
（一般社団法人日本ヒーブ協議会等との共催）
7. シンポジウム香川発！女性と経済活動ーネットワークづくりが女性の経済活動を支援するー
..... P. 18
（特定 NPO 法人日本 BPW 連合等との共催）
8. 少女に対する暴力をなくすためのセミナー..... P. 20
（公益社団法人ガールスカウト日本連盟等との共催）
9. シンポジウム「女性の視点でビジネスに新風を」..... P. 22
（埼玉中小企業家同友会等との共催）
10. 未来を創る女性リーダーの活躍～チャンス・チャレンジ、まず「2020年30%」を目指す～
..... P. 24
（国際ゾンタ 26 地区等との共催）

シンポジウム「映像メディアの世界における女性の活躍」 (明治大学等との共催)

1. 開催趣旨・目的

男女共同参画推進連携会議構成団体の1つである「日本私立大学団体連合会」に属する明治大学の下位組織（情報コミュニケーション学部）に属する一機関という立場から、国との共催事業に乗り出すこととなり、このシンポジウムを開催した。本シンポジウムの目的は、映像メディア業界における女性の活躍を促進することである。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

シンポジウム「映像メディアの世界における女性の活躍」

24日：「アジアの女性映画人のいま：新たなネットワーク構築」

25日：「メディアで拓いた女性のキャリア：映画とテレビ」

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成23年10月24日（月）、25日（火）18：00～21：00
- ・明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1階リバティホール
- ・120名（2日間）

4. プログラム

24日：基調講演「アジアにおける女性映画祭のネットワーキングについて」

パネルディスカッション：「女性映画人の将来」

25日：映画「女性監督にカンパイ！」上映

パネルディスカッション「経験から語る映画界・テレビ界の女性」

5. 参加者からの主な意見

「女性ならではの感性を活かした映画の広がりにより、男性ではなく女性が主体となって動くことが大切だと感じられた。」との感想が寄せられた。

6. シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題

第24回東京国際女性映画祭（10月23日～26日）の期間中に来日したアジア各国の女性映画祭代表者に登壇を要請し、アジアの女性映画人の現状と問題点、多国間ネットワークの重要性、キャリア形成の課題などについて話し合う国際的シンポジウムの実現に漕ぎつけることができた。

7. 今後の課題

1. 映画制作やメディアの現場は男性が大多数を占め、映像で表わされる“女性”は、男性の視

点で描かれていることが多い。

2. 欧米への留学経験や、映像を専門に教える学校の普及、デジタルカメラの登場で機材が安く手に入るようになったことで、アジア各国で女性の映画監督が増えているが、作品が映画館で上映されるケースは少ない。(2011年東京国際映画祭では、コンペティション作品15本のうち女性監督の作品は一本もなかった。)女性監督の作品はドキュメンタリーに偏りがちである。
3. 韓国、台湾では、映画祭を運営する際に政府からの助成金があり、女性監督の育成にプラスの効果が発揮されている。ただし、助成金頼みが続くと、それが削減・廃止された時に、活動が頓挫してしまう恐れがあり、必ずしも有効とはいえないことも指摘された。
4. テレビ局で働く女性にとって、ディレクターや報道記者としてのキャリア形成は男性よりも困難が多い(私生活との両立、不規則な勤務時間、体力、組織内のキャリア形成過程の不明瞭さ)

以上の課題があげられ、今後、当センターとしても女性のメディア業界での活躍促進のために、具体的アプローチを模索していく必要があることを確認した。



会議の様子1



会議の様子2



会議の様子3

以上

若者の性の問題に対するより効果的な連携に向けて ～女性への性暴力を防ぐ～ (公益社団法人日本女医会等との共催)

1. 開催趣旨・目的

男女共同参画の推進課題の中でも今回は、「女性に対する暴力をなくすための啓発」を目的とし、「性の健康」や「性の暴力」などを含めた多くの問題解決へ向け取り組んだ。

シンポジウムの内容は「若者の性の問題に対するより効果的な連携に向けて～女性への性暴力を防ぐ～」をテーマとし、様々な分野の最前線に立つ方々から、性についての正しい知識や女性への性暴力を防ぐ方法等についての具体的な講演・ディスカッションを行った。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

若者の性の問題に対するより効果的な連携に向けて～女性への性暴力を防ぐ～

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成 23 年 11 月 13 日（日）9：30～12：30
- ・ウインクあいち 11 階 1103 号室（愛知県名古屋市）
- ・132 名

4. プログラム

講演

- 蓮尾 豊氏（青森県弘前女性クリニック 院長）
- 岩城 正光氏（日本子どもの虐待防止民間ネットワーク 理事長）
- 中谷 豊実氏（愛知県私学性教育研究会 主任）
- 安間 優希氏（GID Proud 代表）
- 伊藤 桜氏（WADN 2011 年実行委員長）
- 堀尾 理氏（愛知県警察本部地域安全対策課 子ども・女性被害防止対策室長）

5. 参加者からの主な意見

- ・虐待の本質が良く分かった。早急な対応の出来る体制をつくるべき。
- ・面接の出来る専門家の必要性。等多数の意見があったが次回も参加したい等の
- ・満足した・良かったとのアンケート結果を得た。

6. シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題

- ・DVが起きる理由・DVの悪循環を被害者自身が断ち切れない所に問題があり、関係者の強力な連携の必要性を確認した。
- ・聞きとりスキルを持った専門家の必要性を痛感した。

7. 今後の課題

- ・DVによる暴力・傷害が平成12年以降大幅に増加している今日、身体的虐待を発見出来るのは地域・近隣住民であり、医療現場でもある。これに対し早急に対応出来る体制の整備へむけ取り組む。
- ・専門家の養成も課題である。

以 上

具体的にみる女性の社会参画と地位向上 (一般社団法人国際女性教育振興会等との共催)

1. 開催趣旨・目的

今、社会において女性はどんな状況におかれているかを理解し、また、実際にポジティブに社会参加している事例を知る積極的な取り組みから、女性の地位向上に向けて次なるステップへと進展を図ることを目指す。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

具体的にみる女性の社会参画と地位向上

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成23年11月20日(日)13時30分～16時30分
- ・埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)
- ・70名

4. プログラム

基調講演：「明日の社会のとびらをひらく」

講師 金井 郁氏 (埼玉大学経済学部経済学科 准教授)

パネルディスカッション：「夢を形にしたひとたち」

パネリスト 山川 百合子氏 (埼玉県議会議員)

榎本 恭子氏 (久喜市男女共同参画審議会会長)

佐藤 恵氏 (ボイスクリエーションシュクル代表)

コーディネーター 金井 郁氏

5. 参加者からの主な意見

- ・男女別雇用形態や処遇、若年労働市場の現状が理解できた。
- ・今後どのように対応したら良いのかの不安もある。

6. シンポジウム等を通して得た成果(効果)と課題

- ・女性の生き方は、最初から決められたものではなく、ポジティブに取り組んできたことを知って力を得た。
- ・「女性もやれば出来る」と確信した意見あり。
- ・各個人の自立的な意識改革が得られた。

7. 今後の課題

ポジティブ・アクション推進のために

- (1) 地方議会に女性議員を増やす取り組みに参加する。
- (2) 所属する団体や組織、行政に更なるポジティブ・アクションを推進する。
- (3) 団体として各個人のエンパワーメントを高める研修が必要である。
- (4) 若い層・男性の参加を呼びかける。男性中心の社会を変える努力をする。



会議の様子

以上

女性の経済活動セミナー「女性がつくる、地域の元気」

(日本生活協同組合連合会等との共催)

1. 開催趣旨・目的

国の第3次男女共同参画基本計画が策定され、さまざまな局面においてより実効性をもった取り組みが求められている。男女共同参画社会を目指していくために、これからの地域社会づくりや、地域の活性化には、男女共同参画の視点での実践、女性のパワーを活用していくことが不可欠であることを理解するとともに、女性が活動する上でのヒントを得る。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

女性の経済活動セミナー「女性がつくる、地域の元気」

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成23年11月23日（水・祝）13：15～16：40
- ・チサンホテル新大阪
- ・92名

4. プログラム

- | | |
|-------|--|
| 13:15 | 開会、開会挨拶 |
| 13:20 | 内閣府報告「第3次男女共同参画基本計画について」
中垣 陽子（内閣府男女共同参画局調査課長） |
| 13:35 | 基調講演「人口減少時代における地域・経済の課題と、地域社会づくり・活性へのヒント～女性の活力をどう生かしていくか～」
藻谷 浩介氏（(株)日本政策投資銀行地域企画部地域振興グループ参事役
NPO法人コンパス地域経営支援ネットワーク理事長） |
| 14:50 | 休憩 |
| 15:00 | 事例発表・パネルディスカッション「地域で女性が活躍するためには」
【コーディネーター】
藻谷 浩介氏
【パネリスト】
高 亜希氏（NPO法人ノーベル代表 理事）
仲川 順子氏（NPO法人奈良NPOセンター 理事長）
松宮 幹雄氏（福井県民生協 専務理事）
谷 美代子氏（NPO法人友・遊 代表） |
| 16:35 | 主催者まとめ |
| 16:40 | 閉会 |

5. 参加者からの主な意見

- ・分かりやすく解説して頂いたので、世の中の事が見えました。テレビでのニュースだけでは、未来は暗く、日本はこれからどんどん沈んでいくのかと感じられるばかりでしたが、女性も働き続けることができる、様々な取り組みが進めばきっと明るい日本になると思いました。退職男性の家事参加”拍手”です！！
- ・年齢別人口が今後 10 年後、20 年後どうなっていくのか、その高齢人口社会にあった事業のやり方を考えていかなければ。女性の社会進出が今後の日本を変えていくことになるんだなと感じた。
- ・女性だから持ちえる事が可能な分野で活躍している方々の起業、NPO が共感することから生み出されることが確信できました。肯定してくれるまわりの人間関係を形成するためにも、経済的な自立が可能になるように、施策は重要だと思います。
- ・地域というくらしの場で女性がソーシャルビジネスを創出する可能性と将来性に明るい光を感じる。

6. シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題

男女共同参画の推進課題の中でも今回は、「女性の経済活動」にポイントを絞り、講演会を開催した。基調講演では「人口減少時代における地域・経済の課題と、地域社会づくり・活性化へのヒント ～女性の活力をどう生かしていくか～」のテーマのもと、著書「デフレの正体」がベストセラーとして注目され、マスコミ等でも大変ご活躍されている、藻谷浩介氏をお迎えし、今後の女性の経済活動活性化へのヒント等についての具体的な講演がなされた。パネルディスカッションでは、「地域で女性が活躍するためには」のテーマのもと、各パネラーの方々のこれまでの実体験をもとにさまざまなディスカッションが行われ、大変有意義な時間となった。アンケート結果からも「また機会があれば参加したい」など、講演内容に大変満足された方が多く見受けられたため、今後も継続して実施することで、更なる普及・啓発に繋がると感じとれる講演会となった。また、参加者は、生協役職員や組合員のほか、一般の方も参加され、地域社会への発信も行うことができた。

7. 今後の課題

「女性の経済活動」の促進が地域の活性化につながるということについての理解をさらに深め、実践につなげていけるよう、日本生協連として会員生協の取組事例などの集約や発信、セミナー開催などを通じて広く啓発等行っていく。



会議の様子 1



会議の様子 2

以上

『理系女子学生と女性企業技術者が未来を創る』
キャリア開発を見つめるコンファレンス 輝け！企業の理系女子（リケジョ）
（特定 NPO 法人ジャパン・ウィメンズ・イノベティブ・ネットワーク等との共催）

1. 開催趣旨・目的

国内における企業で働く女性技術者を増やすために、企業において技術者として働くことについて、また、女性技術者のネットワークの重要性について、すでに企業で働く女性技術者、これから企業で働こうと思っている女性技術者、理工系女子学生、その他関係者を対象に、理解を深めてもらう。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

『理系女子学生と女性企業技術者が未来を創る』
キャリア開発を見つめるコンファレンス
輝け！企業の理系女子（リケジョ）

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成 23 年 12 月 2 日（金）13:00～
- ・女性就業支援センターホール（東京都港区）
- ・118 名

4. プログラム

- 13:00 開会
- 13:10 基調講演『米国で花開く女性エンジニア (Flourishing As a Women Engineer in the United States)』
ベティー・シャナハン氏 (Executive Director & CEO, Society of Women Engineers)
- 14:10 ゲスト講演『アクセシビリティは世界を変える技術』
浅川 智恵子 氏 (日本アイ・ビー・エム株式会社 IBM Fellow)
- 14:30 休憩
- 15:10 パネルディスカッション『輝け！企業の理系女子（リケジョ）』
パネリスト
ベティー・シャナハン氏 (Executive Director & CEO、SWE)
浅川 智恵子 氏
和田 典子 氏 (ソニー株式会社 半導体事業本部品質信頼部門
シニアソフトウェアプロセスマネージャー)
山岸 裕美 氏 (キリンビール株式会社 醸造研究所微生物技術部部長)
ファシリテーター
松浦 由美子 氏 (日本電信電話株式会社 サイバーソリューション研究所サービスイノベーション PT 主幹研究員)

5. 参加者からの主な意見

基調講演

- ・女性の環境は意外と日米変わらないことに驚いた。
- ・女性技術者の数が少なく、男性と渡り合うためには、内心の自信の無さなど、内々にしまいこんで仕事をしていました。「Imposter Syndrome (詐称症候群)」とても共感しました。「そういう傾向がある。」と思えば、自分を追い込み過ぎず、客観的に考えられるようになりました。とても勉強になりました。
- ・詐欺師(詐称)症候群について、自分も同じではないかと考え、今後プラスに変えるきっかけとなりそうだと感じた。

ゲスト講演

- ・障害者としての強い前向きな姿勢に共感しました。
- ・女性としての働き方について共感できた。
- ・学ぶことがたくさんあり、心に響く言葉が多かった。

パネルディスカッション

- ・みなさんの生き方が垣間見えて共感できた。
- ・自分の足場になるものを見つけたときが、ターニングポイントだったというお話が印象に残った。

6. シンポジウム等を通して得た成果(効果)と課題

米国における前例と、企業の中でトップに上り詰めた技術者の方からの話、さらには、企業で活躍している技術者も交えたパネルディスカッションを通して、技術者として働くことについて、理解を深めてもらえた。

7. 今後の課題

開催に際して、学生や大学関係の方々を対象とする場合には、参加しやすさを考慮する必要がある。



会議の様子 1



会議の様子 2



会議の様子 3

以上

キャリアアップセミナー (一般社団法人日本ヒーブ協議会等との共催)

1. 開催趣旨・目的

日本ヒーブ協議会（以下協議会という）は、企業の消費者関連部門等に働く女性が「生活者と企業のパイプ役」としてその双方を理解したうえで業務遂行することを通じ、企業の健全な発展に寄与するとともに、会員（女性）の能力向上を目的として活動している会である。

企業における女性の管理職登用は、決して十分な数とは言えない。また女性は、同じ職場に長く勤務する傾向があり、ロールモデルと出会う機会に恵まれないことが多い。

そのような中、女性の活躍を推進するためには、企業による女性の能力開発に対する積極的な取り組みが重要である。しかし、そのためには協議会の活動を通じ女性社員も企業内に止まらず異業種と接し、様々なロールモデルと出会い、自分と真剣に向きあいながら、意識改革をしていく必要がある。

当協議会は、今年度テーマに「日本ヒーブ協議会の原点再考」－生活者・行政・企業のさらなる「連携と協働」を目指して－を掲げており、「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」に参画し、上記意識を醸成する場として、「キャリアアップセミナー」を開催した。

具体的内容として、第1部基調講演では2011年4月にシャープ株式会社初の女性役員となった先輩ヒーブを講師に迎え、キャリアアップのためのヒントをご自身の経験を踏まえてご講演いただいた。第2部では、女性の活躍を支える立場の皆様それぞれの取り組みについてパネルディスカッション形式でお話いただき、参加企業や参加者が今後どのように取り組むかを考える場を提供した。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

キャリアアップセミナー

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成23年12月5日（月）13：30～18：45
- ・アイビーホール（東京都渋谷区）
- ・172名

4. プログラム

◆第1部 基調講演【13：30～15：00】

<テーマ>

「企業で働く女性達へ」－組織の成長につながる仕事をするために－

岡田 圭子氏（シャープ株式会社 執行役員 オンリーワン商品・デザイン本部長 兼 ブランド戦略推進本部長、元日本ヒーブ協議会 会員）

◆第2部 パネルディスカッション【15:15~17:00】

<テーマ>

「女性が生き生きと仕事をするために」 —女性の活躍の場をつくる取組み事例から学ぶ—

<パネリスト>

- ・NPO法人ファザーリング・ジャパン 代表理事 安藤 哲也 氏
- ・日本ハム株式会社 人事部長 平井 邦治 氏
- ・内閣府男女共同参画局推進課長 小林 洋子 氏
- ・ライオン株式会社 生活者行動研究所 主任研究員 杉本 美穂 (日本ヒーブ協議会 会員)

<コーディネーター>

NPO法人J-Win 広報担当部長 山本 加津子 (日本ヒーブ協議会 特別会員)

◆第3部 情報交換会【17:15~18:45】

5. 参加者からの主な意見

◆第1部 基調講演 「企業で働く女性達へ」

<良い刺激と感動>

- ・良い刺激になる応援メッセージをもらった。
- ・仕事に対する情熱がビシビシ感じとれ感動した。頑張る先輩が最も力になる。

<多くの示唆>

- ・「どんな仕事でも最終の決裁者のつもりで仕事をする」との言葉が胸に響いた。
- ・「悩む時間があれば知恵を出す」、とても印象に残る言葉だった。

<企業人に共通する話>

- ・男女に関わらず企業人として共通する話で、仕事に男女の区別をつけることは不要だと感じた。

<実体験からのアドバイス>

- ・キャリアを通じて、実体験からのコツやアドバイスを教えていただき非常に参考になった。

<ポジティブ・シンキングの大切さ>

- ・ポジティブに明るく、仕事への強い思いを持って周りを動かしていくことの大切さを教えてもらった。

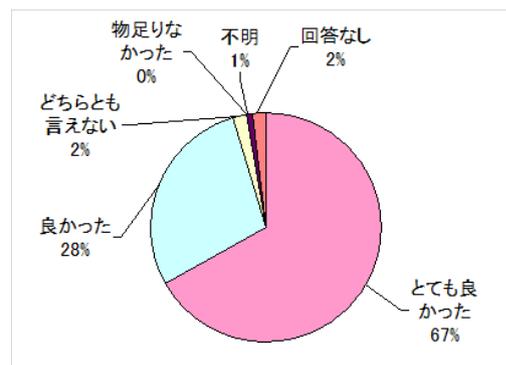
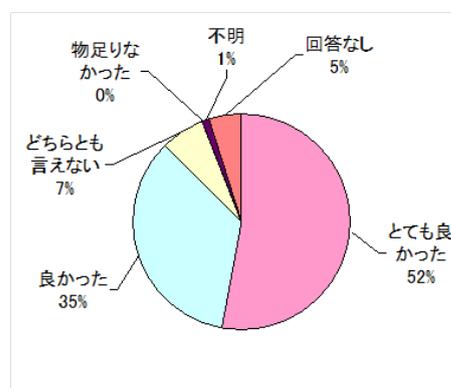
◆第2部 パネルディスカッション「女性が生き生きと仕事をするために」

<多角的な視点からの話>

- ・それぞれの立場からの本音が飛び出し、実りのあるディスカッションだった。
- ・行政・企業・NPO・働く女性など多方面からの視点で話が聞けてよかった。

<ワークライフバランスを考える機会>

- ・ワークライフバランスを考える良い機会となった。産休、育休とキャリアのバランスは深刻な問題ですが、何のため



に生き、仕事をするのか、考えたい。

<男性の育児参加が社会を変える>

- ・男性の支援が、女性の働く環境を良くするという効果が大変興味深かった。
- ・育児は男性にも可能で、その実現で女性が生き活きと働ける社会になることを実感した。

<男女共同参画の重要性を再認識>

- ・企業、国の男女共同参画への具体的施策やイクメンの普及など、連携して変革していく重要性を再認識できた。

<仕事の質、資質を高める>

- ・女性が働きやすい環境や制度が整いつつある今、女性社員ひとり一人が仕事の質、資質を高める努力をしないといけないと感じた。

◆セミナー全般を通して

<男女ともに意識改革が必要>

- ・男女ともに意識改革、行動改革が必要なので、組織のトップや男性管理職・社員にも参加の呼びかけを強める必要があると感じた。

<社会を変えるにはもっと情報発信を・・・>

- ・企業の男女共同参画への意識を高めるために、国の取り組みをもっと幅広い視点で国民に知らせて欲しい。

<組織への貢献が自身の成長に>

- ・「組織内での女性の活躍」を実現するためには、まず自分自身がいかにその組織に貢献するかを徹底的に貫くことだと感じた。
- ・貢献から得られた成果達成こそが、自分自身のやりがいや成長につながると教えられた。

<企画力を高く評価>

- ・日本ヒープ協議会の2011年度のテーマ「日本ヒープ協議会の原点再考」-生活者・行政・企業のさらなる「連携と協働」を目指して-のテーマに則した内容でありとても良かった。
- ・女性自身がいかにあるべきかではなく、所属企業やパートナーとどう取り組んでいくか、といった広い視野からの提起が相次ぎ非常に前向きだった。その意欲と熱気に圧倒された素晴らしい企画だった

6. シンポジウム等を通して得た成果(効果)と課題

- ① 会員企業、企業の上司・人事担当に男女共同参画推進への理解を深める機会を作ることができた。
- ② 会員の能力・資質向上への気づきを得ることができた。
 - ・働く女性にパワーを与える有意義なセミナーであった。
 - ・女性として真摯に社会と向き合う姿勢を学ぶことができた。
 - ・それからの生き方、働き方に多様な可能性があること、なりたい自分の実現に向けて、行動を加速する時であることを実感する機会となった。
 - ・先輩方が歴史を作ってきたヒープの強み、活動の可能性を知ることができた。
 - ・女性にとってネットワークは心強い味方であることを改めて感じた。
 - ・仕事・家庭、どちらも充実させる欲張りな働き方をし、日本のためにも頑張らなければな

らないことを再認識した。

③ 企画・運営などプロジェクトへの参加を通して、学びを得ることができた。

- ・ 企画内容の調整からパンフレット・チラシ作成、プロジェクトの進め方、当日の運営までの全ての経験が大変勉強になった。
- ・ 同年代のヒープの仲間と運営できたことがよい意味での刺激になり、自身の力になったと確信した。
- ・ 仕事とは違う場、違う人と協働することは、新鮮で多くの気づきがあった。

7. 今後の課題

女性が組織で生き活きと働くことについて、行政、NPO、企業、働く女性、それぞれの立場からの発言を一度に聞く機会はまだまだ少ないと感じる。今回のキャリアアップセミナーでは、生活者と企業のパイプ役として、よりよい仕事をするためには、基本的な業務スキルに加えて多角的に考える必要があるということを知り、実感できたセミナーであった。

日本ヒープ協議会が設立された1978年から33年を経て、女性の働き方も大きく変化している。生き活きと働く環境作りのためには、女性・男性ともに積極的に意見を交換し社会を変えていかなければならないことを改めて認識することができた。今後、さらなるネットワークの強化とともに、社会全体に向けてメッセージを発信し続けていきたい。

●生活者と企業のパイプ役として

- ・ 生活の中での気づきを生活者・企業双方の新しい価値として創造し、情報発信する。
- ・ 国や企業との連携と意見交換を推進し、生活者および社会全体に向けてメッセージを発信する。

●働く女性として輝き続けるために

- ・ 「組織への貢献」「リーダーとしての視点」をより強く意識し、自身のやりがいや成長につなげる。
- ・ 幅広いネットワーク活動（異業種交流）を通じ、ロールモデルとの接点、キャリアアップを阻む壁

を乗り越える仲間作りを深め、各々の意識改革を進化させる。



会議の様子 1



会議の様子 2

以上

シンポジウム 香川発！女性と経済活動 ーネットワークづくりが女性の経済活動を支援するー (特定 NPO 法人日本 BPW 連合等との共催)

1. 開催趣旨・目的

女性の経済活動への貢献が、現状ではまだまだ正しく認識・評価されているとはいえません。女性の経済活動の現状を把握し、活躍を阻害する問題点を探ることは、喫緊の課題と考えます。

2010年のAPECWLNのパネル1及び仙台で開催した関連シンポジウムの成果を踏まえ、さらに女性の経済活動を充実・強化するために、各界、各層を横断する女性リーダーのネットワークの形成を目指すシンポジウムを実施しました。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

シンポジウム 香川発！女性と経済活動ーネットワークづくりが女性の経済活動を支援するー

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成23年12月17日(土) 13時～16時
- ・サンポートかがわ国際会議場(香川県高松市)
- ・162名

4. プログラム

第1部 リレー・レポート(基調講演に代えて)

経済界で活躍している女性たちがどのように活動しているか、あるいはその女性たちの経済活動への貢献が正しく認識・評価されているか、また地方都市での現状と問題点など、日本の女性の経済活動の現状についてそれぞれの立場から発言。

第2部 パネルディスカッション(1部の報告を受け、会場の発言を盛り込んで)

女性の経済活動への貢献が正しく認識・評価されるため、そして「地方から元気を」広げていくための問題点の共有化及び解決策・ノウハウの情報交換など、会場との対話を通して、地方から女性の経済活動を支援するネットワークの拡充を図る。

レポーター及びパネリスト

岩田 喜美枝 氏 株式会社資生堂 副社長

武川 恵子 氏 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)

木村 葉月 氏 香川県中小企業家同友会 女性委員会委員長

藤井 寿美子氏 金両醤油(小豆島) 15代目当主修行中

コーディネーター 名取 はにわ氏 元内閣府男女共同参画局長

5. 参加者からの主な意見

参加者のアンケートでは、『香川出身者の話でとても興味をそそられた。第一線で活躍されている女性の様々な職種や視点から話が聞け、今経済活動がどのような状況なのか、問題点はど

こか等々学べて良かった。女性に関する地位の現状を認識させられ、またそれに屈せず活躍している方々に勇気もらった、4人の方々の生き方にとっても魅力を感じた。』等と、『あつという間の3時間だった。もっと聴きたい、他の地方でも開催を』との声が寄せられました。

6. シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題

- ・第1部リレー・レポートでは、それぞれ、経営者・行政担当者として取り組んできたこと、そのような取り組みにもかかわらず、経済への女性の参画が国際的に遅れている現状などが報告されました。
- ・第2部パネルディスカッション「ネットワークづくりが女性の経済活動を支援する」では、会場から寄せられた多数の質問・意見をもとに、女性が仕事を続けるための様々な取組の紹介、女性がもっと活躍できるためのポジティブ・アクションを進めるためのクオータ制の必要性、女性の成長に向けてのチャレンジの重要性、そしてそれらを実現させるためにネットワーク・連携が如何に大切かということについて熱気あふれる議論が展開されました。

7. 今後の課題

今回は男性の参加者も多く、「男女共同参画」にそれほど関心のない一般の方にも多く参加いただけました。経済分野での女性の活躍が社会にとって有益であることを、幅広く理解いただけるように、ネットワークを拡大するとともに強化し、さまざまな機会に発信していきたいと考えています。



会議の様子1



会議の様子2

以上

少女に対する暴力をなくすためのセミナー (公益社団法人ガールスカウト日本連盟等との共催)

1. 開催趣旨・目的

少女に対する暴力をなくすために、少女自身が「暴力を受けない」「暴力をなくすことを訴える」「暴力を受けたときの対処」をできるようになるためのプログラムを開発することを目的とし、主に、高校生、大学生年代の青少年および、青少年教育に携わる人に対してセミナーを開催する。

このセミナーは、2011年から始まった、世界145カ国のガールスカウトが関わる「少女に対する暴力をなくすキャンペーン」と連動している。これは、今後10年間にわたり、少女に対する暴力を世界中でなくすために、少女自身が力をつけ行動していくことを目指している。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

少女に対する暴力をなくすためのセミナー

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成23年12月23日（金・祝）13:00～15:45
- ・ガールスカウト会館（東京都渋谷区西原）
- ・40名

4. プログラム

1. デートDVモデル事業

- ・DVについての意識調査（アイスブレイクをかね）
- ・「ウイメンズネットこうべ」が高校生を対象に実践している「デートDV」に関するワークショップを体験する
 - 「暴力」について知る
 - ロールプレイを通して考える
 - 「暴力」を受けたら、「暴力」を相談されたらどうするかを考える

2. 参加者ディスカッション

- ・「今から踏み出す第一歩」をテーマにグループディスカッションを行った
- ・少女に対する暴力をなくすために、自分たちができることを話し合った

5. 参加者からの主な意見

- ・今回初めて、このテーマにふれ、今までの考え方が少し違っていたと気がつきました。セミナーを受けて、私の周りにデートDVにあてはまるようなカップルがたくさんいて驚きました。これを機に、ガール内だけでなく、友達にも伝えていきたいと思います。
- ・この問題について知らない人がまだまだ多い。ジェンダーの刷り込みも大きな原因で、価値

- 観を変えていく必要があると感じる。早いうちから自分の意見を言ったり、相手を思いやる心を育てたり、中高生に対しては今回の授業のような知ること、気付かせることが必要だ。
- ・寸劇やDVDなど、(デートDVについて)とても分かりやすく楽しい授業でした。中学生から、早めに知るべきだなと思います。
 - ・専門分野の話を聞きにきたつもりでいましたが、自分のしたこと、されたこと、身近な話ばかりでした。「生きていていいんだよ、そのままでいいんだよ」という深いメッセージを感じました。「暴力」への価値観が変わりました。
 - ・少女に対する暴力をなくすために、女性だけでなく、男性にもセミナーを受けてほしい。学校、社会、家庭までこの問題に対する関心が持てるよう内閣府として働きかけてほしい。
 - ・参加して大変参考になりました。これからもガールスカウト活動で少女たちが力をつけられるように指導したいと思います。
 - ・非常に参考になりました。自分自身デートDVを経験していたので、周りの人の言葉がどれ程大切か、ということは分かっているつもりでしたが、今回のセミナーで支援の大切さを更によく分かりました。資料もたくさんいただいたので、セミナーの内容と資料をもとに、周りに発信していけたらいいと思いました。

6. シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題

- ・デートDVについて参加者が理解を深めることができた。デートDVはすべての人のごく身近にある暴力であり、それが暴力であると認識されていないことが多い。デートDVは固定的な男女の役割意識や価値観が一因となっている。少女たちが被害者にならないためには自己肯定感を高め、男女にかかわらずすべての人の価値は同じであることを少女、また少年にも伝えていく必要性を参加者が確認できたのは大変効果があった。
- ・モデル授業は中高生を中心に講師が実際に行っているもので、ガールスカウトの年長部門やリーダーたちにも活用できる手法を学ぶことができた。専門的に取り組んでいる団体と今後も連携をとりながら、ガールスカウトとして少女と若い女性に対する暴力をなくすために取り組んでいきたい。

7. 今後の課題

- ・ガールスカウトでは、少女と若い女性を中心に「少女に対する暴力をなくす」ための活動を進める教材を作成中である。ガールスカウトでは世界レベルでこの問題に取り組んでいく(グローバルアドボカシーキャンペーン)ため、日本で作成する教材には世界と日本の少女を取り巻く暴力の現状を学びつつ、日本の少女と若い女性の生活のごく身近にあるデートDVに焦点を当てていく。教材作成後は、ガールスカウトの若い指導者が同年代および高校生年代に教えるピアエデュケーションという方法を用い問題の理解とその解決方法を波及させていく予定である。また、一般の少女や若い女性にもガールスカウトから発信し、社会によい影響を与えることを目指している。
- ・取り組みを進めるに当たり、専門機関との更なる連携が必要であると考えている。

以上

シンポジウム「女性の視点でビジネスに新風を」 (埼玉中小企業家同友会等との共催)

1. 開催趣旨・目的

女性に支持されるサービスやモノはヒットすると言われている。とすれば、女性の視点を生かしたビジネスの展開が今後さらに必要とされるのは論を待たないであろう。でありながら、組織内に経営の革新を提案できる女性幹部が少ないのは何故か…。

「ビジネスの世界に男女の差はない。あるのは個性の差だけある」という観点にたちつつ、女性ならではの感性と視点でビジネスに成功している女性経営者の経営体験報告を通して参加者がその強みを感じ、意識改革と次へのステップアップにつなげることで女性の経済活動の活性化を目指す。

男性経営者には、女性の活用の重要性と将来性を実感することで、ポジティブ・アクションへの取り組み・成果へ繋げることを期待したい。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

中小企業のWLBに関するシンポジウム～海外との比較を考えた上での日本のWLB～

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成24年1月21日(土) 13:00～17:30
- ・大宮ソニックシティ国際会議室(埼玉県さいたま市)
- ・100名

4. プログラム

13:00 開会 主催者挨拶、開催趣旨説明

13:15 【第1部】パネルディスカッション「女性の感性が生きる経営戦略を」

進行役 戸高 成二氏(彩ノ国総合研究所合同会社 C00 最高執行責任者、中小企業診断士)

パネリスト

上野 広美氏(運輸業/丸越運輸倉庫株式会社 代表取締役)

岡部 千里氏(建築家/アトリエ3C+U建築設計事務所 代表)

久賀 きよ江氏(小売業/株式会社メガネマーケット 代表取締役)

小松 君恵氏(保育業/株式会社コマーム 代表取締役)

鈴木 達弥氏(調剤薬局/株式会社鈴木薬局 代表取締役)

15:00 【第2部】グループ討論

16:40 【第3部】グループ発表まとめ

講評 上田 隆一氏(TEM環境マネジメントシステム研究所 代表)

17:30 閉会

発想を変えて
会社を変える

シンポジウム

女性の視点でビジネスに新風を

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

埼玉中小企業家同友会 女性経営者クラブ・ファム シンポジウム

共催 内閣府、男女共同参画推進協議会、埼玉県 社長の学校
中小企業家同友会全国協議会、埼玉中小企業家同友会

PROGRAM

12:30	受付
13:00	開会 主催者挨拶、開催趣旨説明
13:15	【第1部】 パネルディスカッション テーマ 「女性の感性が生きる経営戦略」
	進行役 戸崎 茂二 氏 新・創業経営者同友会 000 尾崎町 埼玉自 営中小企業家
	パネリスト 上野 広美 氏 東洋電機工業株式会社 代表取締役 岡部 千里 氏 建設業(アト)エスシーエー建設株式会社 代表 久賀 きよ江 氏 小売業(食品)エスエムマーケット 代表取締役 小松 君恵 氏 学芸業(音楽)株式会社エムティエス 代表取締役 鈴木 達彦 氏 顧問業(税務)株式会社エムティエス 代表取締役
14:45	休憩
15:00	【第2部】 グループ討論 ● 討論進行：各グループ長による
16:30	休憩
16:40	【第3部】 グループ発表とまとめ ● 各グループより発表 ● 副評 上田 隆二 氏 電機業(電気)エスエムシステム販売 代表
17:15	アンケートの記入・回収、他
17:30	閉会

発想を変えて
会社を変える

PROFILE

女性の視点でビジネスに新風を

●第1部 パネルディスカッション 進行役・パネリスト

進行役



戸崎 茂二 氏
新・創業経営者同友会 000 尾崎町 埼玉自
営中小企業家
Eメール www.schm.or.jp/~shigenori

パネリスト



上野 広美 氏
東洋電機工業株式会社 代表取締役
Eメール uenohiromi@tdk.com



岡部 千里 氏
建設業(アト)エスシーエー建設株式会社 代表
Eメール okano@essey.com



久賀 きよ江 氏
小売業(食品)エスエムマーケット 代表取締役
Eメール kugakiyoe@esumarket.com



小松 君恵 氏
学芸業(音楽)株式会社エムティエス 代表取締役
Eメール kumatsukimie@emts.jp



鈴木 達彦 氏
顧問業(税務)株式会社エムティエス 代表取締役
Eメール suzukitatsuhiro@emts.jp

シンポジウムチラシ

以上

未来を創る女性リーダーの活躍 ～チャンス・チャレンジ、まず「2020年30%」を目指す～ (国際ゾンタ 26 地区等との共催)

1. 開催趣旨・目的

男女共同参画社会の実現は、女性にとっても男性にとっても生きやすい社会を作ることであり、我が国の最重要課題の一つです。第3次男女共同参画基本計画では「2020年30%」の目標達成に向けて、取組の強化・推進が不可欠であり、分野や実施主体の特性に応じて、実効性のある積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を推進しています。

また、今年度は国際ゾンタ 26 地区（日本）の同率 50 周年に当たり、全国のゾンタクラブにおいては、女性の地位向上、中でもポジティブ・アクションをテーマの一つに掲げて活動を展開しています。

このシンポジウムでは、これに関連して、広く市民の方々と共に政策・方針決定過程への女性の参画の重要性、現在リーダーとなっている女性の責任と役割、更に女性たちが能力や意欲を十分に発揮できる環境の整備や育成についての理解や認識を深め、今後の効果的なポジティブ・アクションの推進方法や展望について議論します。

2. シンポジウム等の名称・テーマ

女性の活躍推進シンポジウム

3. 日時・場所・参加者数

- ・平成 24 年 3 月 17 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
- ・東京ウィメンズプラザホール（東京都渋谷区）
- ・155 名

4. プログラム

13:30 開会 主催者挨拶、国際ゾンタ会長メッセージ、来賓挨拶

13:45 第1部 「ポジティブ・アクション」推進について、各エリアの活動報告

14:30 第2部 パネルディスカッション

「男女共同参画の実現に向けて～ポジティブ・アクションをすすめるために～」

16:20 全体合唱 ～災害復興の歌「しあわせ運べるように」～

16:30 閉会挨拶



未来を創る 女性リーダーの活躍

—チャンス・チャレンジ、まず「2020年30%」を目指す—

男女共同参画社会の実現は、女性にとっても男性にとっても生きやすい社会を作ることであり、我が国の最重要課題の一つです。第3次男女共同参画基本計画では「2020年30%」の目標達成に向けて、取組の強化・加速が不可欠であり、分野や実施主体の特性に応じて、実効性のある積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を推進しています。また、今年度は国際ゾンタ26地区(日本の創立50周年に当たり、全国のゾンタクラブにおいては、女性の地位向上、中でもポジティブ・アクションをテーマの一つに掲げて活動を展開しています。このシンポジウムでは、これに関連して、広く市民の方々と共に政策・方針決定過程への女性の参画の重要性、現在リーダーとなっている女性の責任と役割、更に女性たちが能力や意欲を十分に発揮できる環境の整備や育成についての懸念や課題を察し、今後の効果的なポジティブ・アクションの推進方法や展望について議論します。

日時 平成24年3月17日(土) 13:30~16:30 [受付13:00]

会場 東京ウィメンズプラザ ホール [定員/200名 [先着順] 参加費/無料]

主催 内閣府、男女共同参画推進連携会議、国際ゾンタ26地区【日本】

- 開会 (総合司会) 豊田 山郎子 / 26地区エリア2 ディレクター
(主催者挨拶) 岡崎 敦子 / 内閣府男女共同参画局長
上田 トウエ / 国際ゾンタ26地区ガバナー
(来賓挨拶) 森松 良子 / 元文部大臣、元女子差別撤廃委員会委員
- 第1部 「ポジティブ・アクション」推進について、各エリアの活動報告
(報告者) エリア1 岡崎 文子 / 札幌RISゾンタクラブ
エリア2 片桐 典子 / 東京RISゾンタクラブ
エリア3 早川 久仁子 / 京都RISゾンタクラブ
エリア4 小島 久美子 / フェニックス神戸ゾンタクラブ
(コーディネーター) 坂田 真志子 / 26地区専任委員長
- 第2部 パネルディスカッション
「男女共同参画の実現に向けて～ポジティブ・アクションをすすめるために～」
(パネリスト) 辻村 みよ子 / 東北大学大学院教授
江副 弘隆 / びんなん銀行常務執行役員
梅本 和秀 / 北九州市市長
室本 晴子 / 前千葉県知事、(男女共同参画と災害・復興ネットワーク)代表
(特別提言) 原 ひろ子 / 城西国際大学大学院客員教授
(コーディネーター) 三隅 佳子 / 国際ゾンタLAA委員会委員、26地区LAA委員長


辻村 みよ子


江副 弘隆


梅本 和秀


室本 晴子

- 全体合唱 ～災害復興の歌「しあわせ運べるように」～
- 閉会 (閉会挨拶) 山本 晴子 / 国際ゾンタ26地区50周年実行委員長

お申し込み方法・会場へのアクセスは裏面をご覧ください

積極的改善措置(ポジティブ・アクション)とは

自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供すること。(男女共同参画社会基本法第2条)

お申し込み

ホームページよりお申し込みください。

- ・定員…200名(先着順)
- ・託児…0歳から6歳までのお子さま5名までお預かりします。(要事前申込)
- ・手話通訳…あり

※託児・手話通訳をご希望の方は、**3月10日(土)**までにお申し込みください。

ホームページURL
http://www.it-ex.info/zonta_info/

※お申し込みいただいた個人情報は、当イベントの運営業務のみに使用し、関係終了後はすみやかに破棄いたします。

アクセス

東京ウィメンズプラザ
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67



【JR山手線・東急東横線・京王井の頭線】渋谷駅下車 徒歩12分
【地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線】表参道駅下車 徒歩7分
【都バス(渋88系統)】青山学院前バス停下車 徒歩2分

シンポジウムチラシ

以上



内閣府 男女共同参画局 総務課

〒100-8914 千代田区永田町 1-6-1 TEL : 03-5253-2111(内線 37522) FAX : 03-3581-9566